

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要

南相馬市教育委員会

- 1 実施日 令和6年 4月18日(木)
- 2 調査対象 市内小学校 第6学年全児童(11校 275名)
市内中学校 第3学年全生徒(6校 321名)
- 3 調査内容
 - (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)
 - ① 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
 ※ 上記①と②を一体的に問う。
 - (2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

4 調査結果

(1) 教科に関する調査

① 小学6年生の平均正答率(%) (平均正答数/設問数)

	国 語	算 数
南相馬市	65 (9.1/14)	57 (9.1/16)
福 島 県	66 (9.3/14)	60 (9.5/16)
全 国	67.7 (9.5/14)	63.4 (10.1/16)

② 中学3年生の平均正答率(%) (平均正答数/設問数)

	国 語	数 学
南相馬市	54 (8.1/15)	42 (6.7/15)
福 島 県	57 (8.6/15)	48 (7.7/15)
全 国	58.1 (8.7/15)	52.5 (8.4/15)

※ 平均正答率とは、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率です。

※ 国の公表方針及び提供資料に基づき、県と本市の数値については整数値による公表となります。

③ 調査結果の概要

小学校は、国語、算数ともに、全国平均正答率を下回りました。

中学校は、国語、数学ともに、全国平均正答率を下回りました。

④ 教科に関する調査結果から見える成果と課題

【 成 果 】

- (ア) 本年度の小学校調査において、国語・算数ともに全国平均正答率を大きく上回る学校や、教科によっては全国平均正答率を上回る学校もありました。
- (イ) 小学校調査の国語における知識及び技能の正答率が、全国平均を上回りました。文章から要点をまとめる力が向上しています。漢字の書き取りについても全国平均を上回りました。本市中学校調査の国語では、昨年より全国正答率との差が縮まりました。
- (ウ) 小学校調査の国語・算数における全問正解者の割合が全国平均とほぼ同程度でした。

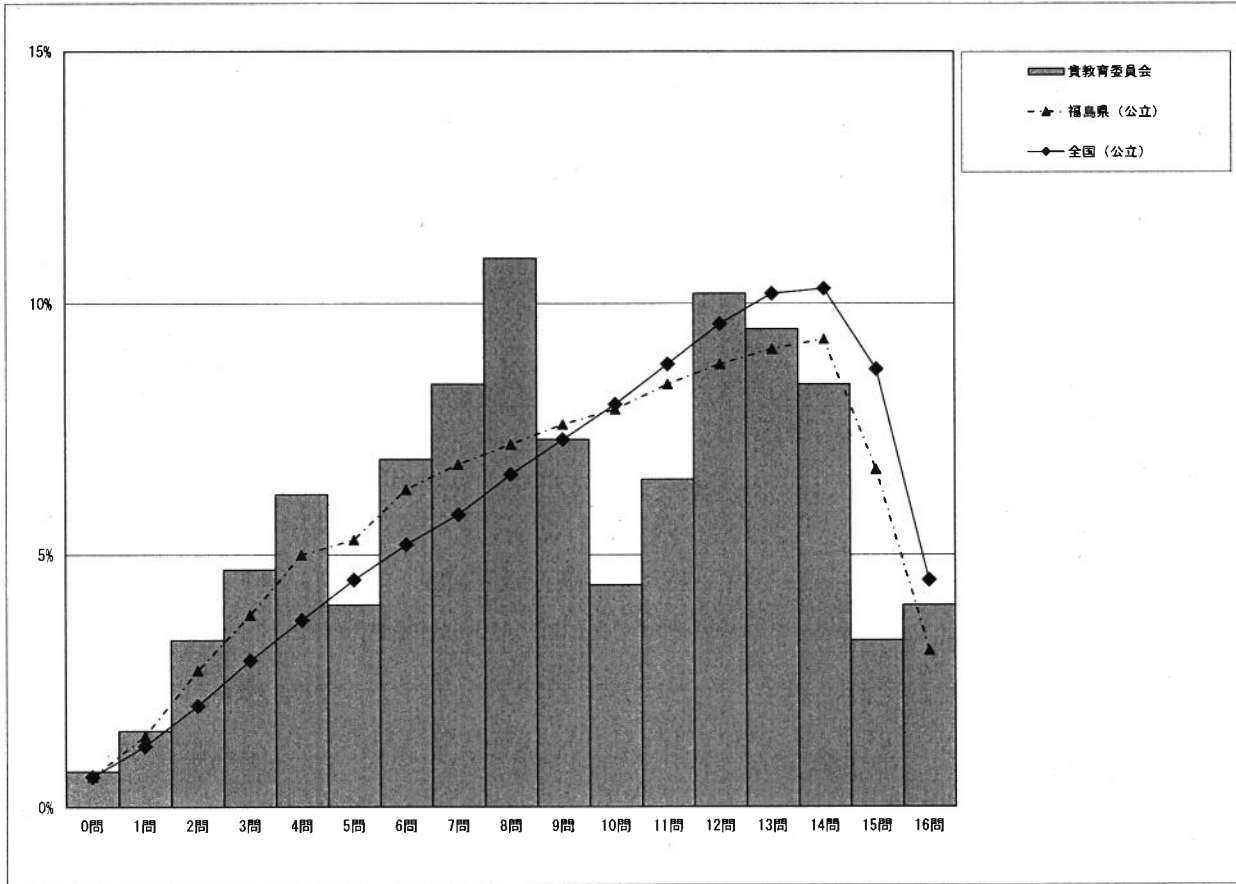
【 課 題 】

- (ア) 小学校算数、中学校数学の正答数の分布を全国値と比較すると、上位層が少なく、中位から下位にかけての層に厚みが見られました。
- (イ) 中学校国語の「書くこと」及び「読むこと」の正答率が低く、無解答率も高くなる傾向が見られました。文章を比較して表現の効果を考えたり、根拠を明確にして書いたりすることに課題が見られます。
- (ウ) 中学校数学の全ての領域の正答率が、全国値と比較して低く、特に「図形」「データの活用」の領域では、表をもとに考えたり、言葉で説明したりすることに課題が見られます。
- (エ) 小・中学校ともに、基本的な問題を取りこぼす傾向にあり、基礎・基本の定着が課題です。設問の意図を的確に捉え、教科の見方・考え方をふまえて問題を解決する力の育成が必要です。

⑤ 今後の取り組み

- (ア) 学習支援員や学力向上教員などと連携しながら、中・下位にかけての層への手厚い支援を充実させるとともに、上位層への学習活動を工夫するなどして、個々の習熟度に合わせて力を伸ばせるように指導してまいります。
- (イ) 小学校の算数科、中学校の数学科の授業において、表やグラフから読み取れることや事象の意味などを、言葉で理解し、説明することができるよう指導してまいります。
- (ウ) 個々のつまづきを分析して個別最適な指導にあたるとともに、子どもたちが主体性を持ち、対話を通して協働的に考えを広め、学んだことを使う授業を行います。
- (エ) 学習内容の定着に向けて、授業におけるまとめ、振り返りの確保をするとともに、家庭との連携による学んだことが残る学習習慣の定着に努めます。

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

